

日中医療福祉の発展目指す

社団立上げで厚生労働大臣も祝辞

日中の医療福祉の発展を目指す一般社団法人日中医療福祉交流協会（東京都港区）が設立された。11月7日には設立記念式典が開催され、日中の医療福祉事業関係者が集まった。

海外進出支援も

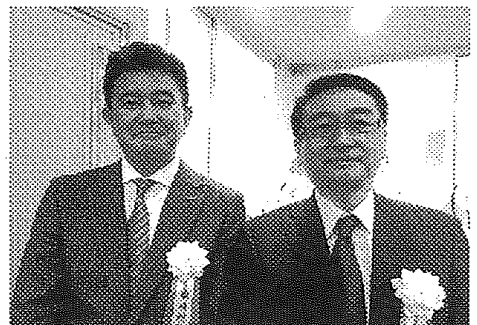
医療・福祉経営などを手掛けるネクサス（同港区）の社長、柴崎雄氏が日本側の代表理事に、日中福祉や政治、経済、文化交流に努める中国国際友好連絡会の理事、柴雍光氏が中国側の代表理事を務める。

柴崎代表理事は「日本式介護をローカライズしていきながら、日

本の経験を中国で活かしたい。また中国からの人材受け入れなどを通して、日本の福祉業界の人材不足の一助になるといい」と挨拶した。

当日は塩崎恭久厚生労働大臣が駆けつけ、

「高齢化のスピードが速い日本の経験はモデルとなっている。日本が経験してきた成功と



▲柴崎代表理事（左）と柴代表理事（右）

失敗からノウハウを学んでほしい」と中国関係者に呼びかけたほか、北京市高齢産業協会の王寿松執行副会長による中国における福祉事情についての講演なども行われた。

同団体は事業を通じて中国の健康・福祉の向上と日本企業の中国進出のためのプラットフォームの構築を目指



▲17日に開催された記念会

す。主な業務内容は現地パートナー・マッチングや海外での事業組成・運営フォロー、人材育成・セミナー、訪中団派遣といったアウトバウンド事業や外国人患者の受け入れフォローや外国人職員の教育受け入れフォローなどのインバウンド事業を予定している。